

**2021 年度
啓明学園高等学校入試問題**

一、
1～8のひらがなは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。(送りがなも書くこと)

- 1 ハトは平和のしょうちょうとされている。
- 2 この土地は、かつて諸外国からしんりやくされていた。
- 3 友人にめいわくをかけてしまい、誤った。
- 4 はずかしい思いは誰もしたくはない。
- 5 あれはじんい的な操作による事件だ。
- 6 商品の注文をうけたまわる。
- 7 彼の薄情な言葉に悲しくなった。
- 8 念願の勝利を果たし、感涙にむせぶ。

二、次の文章を読んで後の問に答えなさい。

なぜ自分はこの世に生まれ、なぜ生き続けているのか。もともと、この問いを考えるのは哲学の役割でした。哲学は、世界をわかりやすく解釈すること、そして、生きる意味を教えること、という二つの使命を負っていました。A、社会の大きな変化により、哲学は①二つの学問に乗っ取られてしまいます。

20世紀、哲学は生物学にその地位を譲り渡しました。それまで、人間はほかの生物とは異なる特別な存在であると考えられていました。自然を支配し、管理する権利を神から与えられ、神の姿に似せてつくられた存在だとされていたのです。それが、生物学の登場によって、人間もほかの生物と同じようにDNAという遺伝子によってつくられていることが明らかになりました。B人間をつくるのも遺伝情報であり、その情報をいじれば、病気など、人間の抱えている問題は解決でき、身体や性格さえも意のままに変えられるという予測が成り立つようになったのです。

②その予測は、まず栽培植物と家畜という形で現実になりました。今、地球の全陸地に占める牧草地、放牧地、農耕地の割合は36%に達しています。C地球上に生きている哺乳動物の9割以上は人間と家畜です。人間と、人間が手をかけてつくり上げた動物が地球上の哺乳類のほとんどを占めてしまった。今は海の魚にまで人間が手を加えています。このまま行くと、人間の手にかからない生命はなくなってしまうかもしれません。それほどまでに生命をつくり変えた人間は、さらに自分自身も遺伝子編集や遺伝子組み換えによってつくり変えようとしています。神経

細胞の間をつなぐインパルス(電流)によって、記憶も思考もすべて解凍できる。心も脳の中にある。生物学はそう断じたわけです。

こうして哲学を乗っ取った生物学は、やがて情報学に乗っ取られます。情報であるDNAを操作すれば、③有機物であれ④無機物であれ、あらゆるものをつくり出すことができる。生物も、遺伝的アルゴリズムでできた情報の塊です。人間も同じ。遺伝的アルゴリズムを解釈すれば、いくらでも情報は書き換えることができる。情報として捉えれば、世界の在り方もすべて数学的に解釈ができるわけです。こうして、⑤哲学が人間を定義し、人間の生きる意味を考える時代は終わりました。

生物学を乗っ取った情報学は、⑥人間を知能偏重に変えました。情報が扱うのは、人間がもつ二つの能力、知能と意識のうちの知能の部分だけです。大脳辺縁系が司る意識の部分は切り捨て、情報になる部分、つまり大脳新皮質が司る知能だけで解決していこうというのが今の情報革命の中心理念だからです。AIも、知能だけを拡張したものであって、感情や意識の部分はありません。人間は、感情や意識を忘れ、知能に偏り始めたことで、本来、決してわかるはずのない「好き嫌い」や「共感」、「信頼」といった感情を、情報として「理解」しようとするようになりました。

【ア】かつて人間は、そんなことに悩む必要はなく、意識にa従順であり続けられました。意識や感情は本来すごく曖昧なもので、波のように寄せたり引いたり、霧や雲のように消えたり現れたりします。「好き」という感情を細かな要素に分析しなさいといわれてもできるものではないでしょう。それは、知能でわかるものではなく、感じることでかからです。犬や猫を飼っている人は、考えてみてください。ペットの犬を

かわいと思う気持ちは、いくら分析してもわかりません。自分にすり寄ってくる犬の感情は、尻尾を振ったり吠えたりする様子を見れば感じとれますが、何がその感情を呼び起こしたのか明確に分析することは不可能です。もしかしたら人間の1000倍以上の嗅覚で、人間が無意識のうちに発している匂いを感じとってそれに反応しているのかもしれないが、それはわかりません。確かなのは、

I

五感の異なる動物と100%^⑦わかり合おうというのは無理なことです。それでも、飼い主として一緒に暮らしていれば、彼らは何をしたいのかわかることも多いですね。暖味なものを暖味なままで了解し合うのが動物たち、特に異種間のコミュニケーションなのです。それで両者に不自由はありません。【イ】

こうしたペットとの関係を、かつて人間は人間同士でも結んできました。相手の心を明確に知ることはできないけれど、了解できるものはある。その了解できるものが自分と相手の間に横たわっているからこそ信頼関係が生まれます。信頼関係をつくるのは言葉ではありません。言葉は代替物であって、信頼関係へのリアルな架け橋になるのは、それ以外の五感の中、正しくは、五感を感じられる身体の中にあります。それを、言葉でうまく代替して空間を広げるのが人間的な社会のつくり方であって、その際、身体が感じた「暖味なもの」は暖味なままにしておいていいです。

ぼくたちは、そういう世界にずっと生きてきました。^⑧そこで幸福やら喜びやらを抱き、一方で憎しみや嫉妬といった負の感情を、他者の助けも借りて解決してきた。それが人間の社会性だったわけです。

情報学に乗っ取られてから、人間はどんどん分析的になり、すべてを

情報化しなくては気が済まなくなりました。人間は、感じたことで衝動づけられたり助け合ったりします。あるいは、食卓を囲んで楽しい思いをしたり、踊って興奮したりする。こうした感性の部分は情報化できません。たとえ情報に還元したところで、表面的な情報にしかならないでしょう。そして今、^⑨「わかろうとすることがわからないことにつながる」という矛盾が生じています。情報化するということは、わからないことを無視するということです。それは、隠されているものを捨てていく作業だからです。人間は、情報化することで逆にバカになってしまいました。

^⑩共感というのは「相手の気持ちがわかる」ことです。それを、「相手を理解すること」だと誤解している人たちが、多いように思います。相手を「理解」するのではなく、ただ「了解」することが、互いの信頼関係を育んだり、好きになったりする架け橋になるといことがわからない。^b同調する能力があるにもかかわらず、それがお互いの信頼関係を育んだりすることもわからない。さらには、他者の自分に対する感情や、他者に対する自分の感情が、「好き」という言葉で表される感情に匹敵するものかどうなのかも判断できないのです。

【ウ】実際には生み出されていない信頼を、一番近くにいる仲間にも過剰に求めるがゆえに起きている不幸な事件も多いのではないかと思っています。

(山極寿一『スマホを捨てたい子どもたち 野生に学ぶ「未知の時代」の生き方』2020年ポプラ社)

問 1

||| a・b・c の意味として最も適当なものをそれぞれ一つ
選び記号で答えなさい。

a 「従順」

- ア 反抗的であること
- イ 親切であること
- ウ 大人しく素直であること
- エ 対等であること

b 「同調」

- ア 言いなりになること
- イ 協力すること
- ウ 他にあわせること
- エ 納得すること

c 「過剰に」

- ア 異常なほどに
- イ 必要以上に
- ウ 驚くほどに
- エ 不思議なことに

問 2

文中の空欄 A・B・C に当てはまる語句として最も適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア そして
- イ たとえば
- ウ しかし
- エ つまり

問 3

——①「二つの学問」とあるが何か、それぞれ答えなさい。

問 4

——②「その予測」とあるが、このような「予測」が成り立つのは、人間に対するどのような認識によるか、説明しなさい。

問 5

——③「有機物」、——④「無機物」は対義語である。次の 1

- 1 偶然
- 2 既定
- 3 消費
- 4 依存

問 6

⑤ 「哲学が人間を定義し、人間の生きる意味を考える時代は終わりました」とあるが、どのような意味か、その説明として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

ア これまでの哲学に代わり、人間を他の哺乳類と変わらぬ存在と定義づけ、その特権的地位を奪った情報学が、今後は生物としての人間を説明づけていくこと。

イ これまでの哲学に代わり、人間を完全に再現可能な単純な構造物として捉える情報学が、私たちの存在を定義していくこと。

ウ これまでの哲学に代わり、人間を書き換え可能な情報の集合体として捉える情報学が、世界の在り方を決定づけるということ。

エ 世界の全てを数学的に解釈することであらゆるモノを生産可能にする生物学が、哲学を乗っ取り人々を定義し始めたということ。

オ 遺伝的アルゴリズムという仕組みを理解し、分析すれば、自然と人間のあるべき姿が導き出されてくるということ。

問 7

⑥ 「人間を知能偏重に変えました」とあるが、その結果人間はどのようなになったと説明されているか、答えなさい。

問 8

文中の空欄 I に当てはまる文として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

ア 相互の感情の内実を明確に理解し合えるということ。

イ 嗅覚に優れた犬、だけが、相手の感情について理解できたという点です。

ウ 異種族の間に、信頼関係は成立し得ないということ。

エ お互いにそういう感情が湧いたという事実です。

オ 自分自身がわかっていればそれでよいと自信をもっていることです。

問 9

⑦ 「わかり合おう」の「う」の文法上の意味として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

ア 完了 イ 意志 ウ 断定 エ 推量

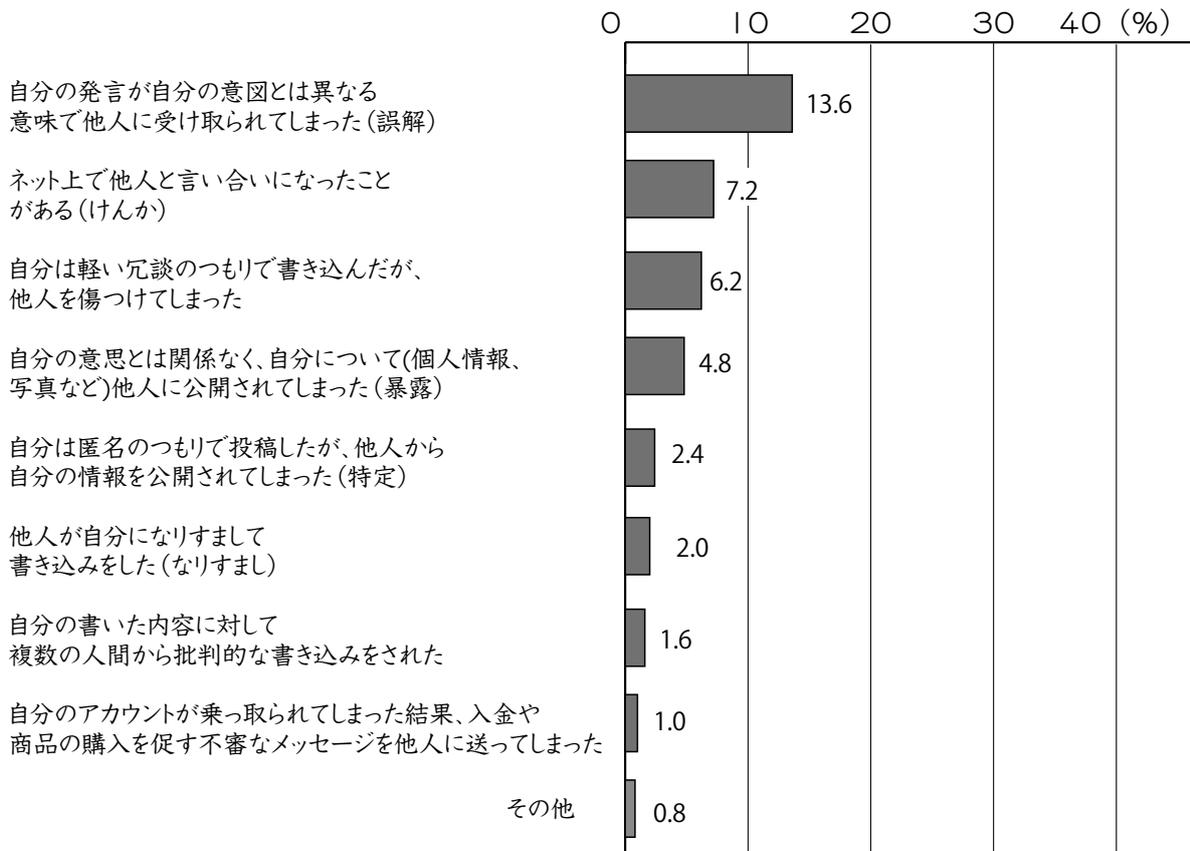
問 10

⑧ 「そこ」とは何を指すか、五十字以内で説明しなさい。

問 11

⑨ 「わがろうとすることがわからないことにつながる」とはどのような意味か、説明しなさい。

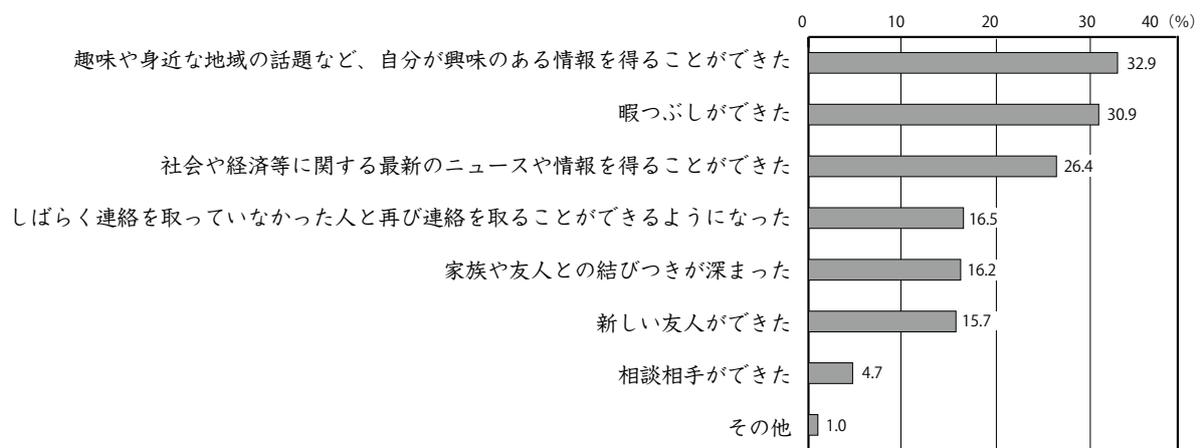
資料I 「ソーシャルメディアの情報発信者が経験したトラブル(日本)」



「ソーシャルメディアの情報発信者が経験したトラブル(複数回答、国際比較)」

『平成30年版情報通信白書』(総務省2018)より日本のデータのみ引用し、本校で編集をした。

資料II 「ソーシャルメディアを利用して良かったこと(日本)」



「ソーシャルメディアを利用して良かったこと(日本、複数回答)」

『平成30年版情報通信白書』(総務省2018)より引用し、本校で編集した。

二、次の——①～⑩の品調名を、あとの語群からそれぞれ選んで記号で答えなさい。(同じ選択肢を使用してもよい)

なぜ自分①はこの世に生まれ、なぜ生き続けているのか。②もともと、この問いを考えるのは哲学の役割でした。哲学は、世界を③わかりやすく解釈すること、そして、生きる意味を教える④こと、というこの使命を負っていました。

⑤しかし、社会の⑥大きな変化により、哲学は二つの学問に乗っ取られてしまい⑦ます。

20世紀、哲学は生物学にその地位を譲り渡しました。それまで、人間はほかの生物とは異なる特別な存在で考え⑧られていました。自然を⑨支配し、管理する権力を神から与えられ、神の姿に似せてつくられた存在だとされていたのです。それが、生物学の登場によって、人間もほかの生物と同じようにDNAという遺伝子によってつくられていることが⑩明らかになりました。

【語群】

- | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|------|---|-----|
| ア | 動詞 | イ | 形容詞 | ウ | 形容動詞 | エ | 名詞 |
| オ | 副詞 | カ | 連体詞 | キ | 感動詞 | ク | 接続詞 |
| ケ | 助動詞 | コ | 助詞 | | | | |

■ 2021 年度入試解答 国語

問 6	問 5	問 4	問 3	問 2	問 1
	1			A	a
	2			B	b
	3			C	c
	4				

5 じんい	1 しよづちしよづち
6 うけたまわる	2 しんりやく
7 薄情	3 めいわく
8 感涙	4 はずかしい

	問 14	問 13	問 12	問 11	問 10	問 9	問 8	問 7
①	二枚目の原稿用紙に解答すること。							
②								
③								
④								
⑤								
⑥								
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								

三

問 6	問 5	問 4	問 3	問 2	問 1
ア	1 必然	人間は、(他の生物と異なる特別な存在ではなく)他の生物と同じように遺伝子によって作られているという認識。	生物学	A ウ	a ウ
	2 未定			B エ	b ウ
	3 生産		情報学	C ア	c イ
	4 自立				

5 じんい 人為	1 しょうちよう 象徴
6 うけたまわる 承る	2 しんりやく 侵略
7 はくじよう 薄情	3 めいわく 迷惑
8 かんるい 感涙	4 はずかしい 恥ずかしい

		問 14	問 13	問 12	問 11	問 10		問 9	問 8	問 7	
三	①	二枚目の原稿用紙に解答すること。	ウ	相手をただ「了解」するといふこと。	人間は物事を理解しようと情報化を行うが、その際理解に必要な感性などは、情報化しにくいため切り捨てられ、結果的に理解できないものが増えていくといふこと。	えながら社会を作り上げていくような世界。	五感で感じた曖昧なものを、曖昧なままに言葉に置き換	イ	エ	(別解) 本来決してわかるはずのない「好き嫌い」や「共感」、「信頼」といった感情を、情報として理解しようとするようになった。 人間はどんどん分析的になり、全てを情報化しなくては気が済まなくなった。	
	②										オ
	③										イ
	④										エ
	⑤										ク
	⑥										カ
	⑦										ケ
	⑧										ケ
	⑨										ア
	⑩										ウ